

施策番号	施 策 名	予算額(百万円)	
222	健康づくりと保健予防の推進	3,935	
【2010年度の目標】 子どもから高齢者にいたるまで、健康に関する正確な情報が入手できるとともに、健診や相談をはじめとしたさまざまなサービスを活用できたり、民間施設との機能分担が図られ、一人ひとりの健康づくりが進んでいます。			
項 目	基準年度の状況	1999年度実績	2001年度の目標 (2010年度の目標)
生活習慣病死亡率	(1995年) 61.6%	60.5%	60% (55%)
日常運動時間(成人)	(1994年) (早歩き)10分/日	9.5分/日	早歩き 12分/日 (早歩き 30分/日)
カルシウム摂取量 (1日当たり必要量比)	(1994年度) 84.2% (505.2mg/日)	90.5% (543mg/日)	90.0%(540mg/日) (100%(600mg/日))
8020達成者の割合	(1993年) 8.9%	21.4%	13.5% (20%)
基本健康診査受診率	34.8%	44.0%	46.6%(見直し後) (55%(全国中位以内))

これまでの取組

平成12年度には、審議会の設置、インターネットによる県民の意見反映等により、健康づくりの県民運動を展開するための数値目標の設定や、その推進に向けた基盤づくり、評価のシステムづくりを行う「ヘルシーピープル・みえ21」を策定します。

感染症危機管理対策に関しては、保健所の危機管理体制の整備 本年度末の各保健所の依頼検査事業廃止による行政検査の質低下への対応 保健環境研究所の所管である高度な行政検査事業の役割の明確化 感染症情報センターの明確な位置づけと機能強化を総合的にコーディネートし、感染症危機管理体制の再構築を図っているところです。

また、保健環境研究所としては、感染症発生动向及び流行予測の病原学的研究、腸炎ピブリオによる食中毒発生機構や、インフルエンザに対するワクチンの効果及び発生寄与要因の解明等に関する研究を行い、地域保健対策の推進に役立つ科学的根拠を得ることができました。

学校教育関係では、児童・生徒の健康管理、保健安全教育推進事業、エイズ予防等の取組みを進め、健康づくりと保健予防に努めてきました。

平成13年度の取組

平成13年度には、「ヘルシーピープル・みえ21」に基づき地域特性、ライフサイクルに応じた多様な取り組みが県民、関係機関、NPO等との連携、協働により創出、提供されるよう事業の推進体制を整備します。また、「健康づくり条例(仮称)」を制定し、総合的な健康づくり施策を推進するとともに科学的根拠に基づいた事業を実施するため、情報の分析、整理、提供を推進します。

また、感染症対策としては、公衆衛生の向上及び増進を図り、県民の健康づくりと保健予防を推進するため、発生の予防を中心とした、事前対応型の施策を推進し、感染症の発生予防とまん延防止を図るとともに、食中毒の予防に関する研究等を継続して行います。

学校教育関係では、児童生徒の健康増進と同時に、心の健康等に関する研修事業を実施し、養護教諭をはじめとする職員の資質の向上を図ります。更に生涯を通じて子ども一人ひとりが自らの健康課題を主体的に捉え解決していく力の育成を図っていきます。

この他、難病対策については、引き続き実施していくとともに、肝疾患対策については抗体検査及び治療費補助の必要性について、過去の実績を検証し見直しを行います。

主な事業

- 1 (新) いきいき健康生活支援事業 (9,907(0)千円)
【(101) 適正生活習慣形成支援事業】〔健康福祉部〕
「ヘルシーピープル・みえ21」に基づき運動、喫煙、飲酒習慣の適正化に向け、学校保健・産業保健・企業・NPO等と協働で環境づくりを推進し、県民の適性な生活習慣の形成を図ります。
- 2 (新) こころのネットワークづくり事業 (7,907(6,698)千円)
【(103)こころの健康づくり推進事業】〔健康福祉部〕
リストラ、いじめ等による心の傷やその後の重い障害に対し、関係機関とネットワークを構築することにより、生涯を通じた心の危機への支援体制を整備します。
- 3 (新) 健康食環境創造事業 (8,837(4,712)千円)
【(105)食環境整備事業】〔健康福祉部〕
食糧の流通や飲食など県民の「食」を取りまく環境を健康的に整備し、県民の健康的な食生活を支援するとともに、「食事を楽しみながらバランスよく食べる力」を育む「食育」を推進します。
- 4 特定疾患治療研究医療費等への助成 (754,726(377,369)千円)
【(203) 難病対策事業】〔健康福祉部〕
難病のうち特定疾患は医療費が高額であるので、この負担を軽減させるため、一定の治療に対する医療費の給付を行います。
- 5 腸炎ピブリオ調査研究費 (1,093(1,093)千円)
【(206)健康づくり研究推進事業】〔総合企画局科学技術振興センター〕
腸炎ピブリオの病原因子は耐熱性溶血毒であることは明らかとなっておりますが、これを産生する遺伝子を保有する菌株の実態は未解明のため、遺伝子レベルでの調査研究を行い、自然界及び食品における汚染実態や汚染機序を解明します。
- 6 県立学校児童生徒等健康管理事業 (73,716(73,650)千円)
【(302) 学校保健安全管理事業】〔教育委員会〕
県立学校の児童生徒等の健康増進を図るため、学校保健法に基づき健康診断を行い、要保護・準要保護児童生徒の医療補助を行うとともに、学校環境衛生検査、予防接種を実施し、疾病予防に努めます。
- 7 (新) 健診情報活用基盤整備事業 (6,521(0)千円)
【(402)健診・相談等サービス体制整備事業】〔健康福祉部〕
県内で実施されている各種健診(検診)情報を統一化して集約し、県・市町村の健康指標とするとともに、県民に各種健診情報を提供することにより、利用しやすい環境を整備します。
- 8 (新) 県民健康づくり協働事業 (5,213(2,267)千円)
【(404) 健康づくり総合推進事業】〔健康福祉部〕
「ヘルシーピープル・みえ21」に基づき県民、関係機関、NPO等との協働による健康づくりを推進するため、施策に対する評価システムの構築、情報提供システムの構築、地域での協働体制の整備等を実施します。

主な見直し項目

県の公共関与のあり方を見直し、保健所で行っている依頼検査・検診事業については、平成12年度末に、総合保健センターについては、平成13年度末に廃止。
「三重の健康指標向上推進協働事業」は、当初目的である計画策定を達成し、実施事業にシフトしたため廃止。
「特定疾患治療研究医療費等補助事業」は、肝炎対策の抗体検査の必要性について、過去の実績により事業を見直し。